

腕時計型端末で健康管理

県立医大など実証実験 対象住民に説明会

近鉄グループホールディングスは、県立医大（橿原市）と協力して、腕時計型のウェアラブル端末を使って健康状態を管理する実証実験を実施するのに先立ち、実験に参加する近鉄沿線の住民を対象に説明会を行った。



健康管理の実験について説明する梅田教授（奈良市で）

実験は30歳以上の住民を対象に今月から来年3月末まで行う。2日時点で約200人が参加する予定になっている。入浴時などを除いて手首に巻いた端末で歩数や睡眠時間を毎日計測し、自宅に置いた小型センサーで気温や湿度などと健康の関係も調べる。データはネット上で管理し、体調や食事の注意点をスマートフォンやパソコンに送信するという流れだ。

説明会には約30人が参加。医学をまちづくりを活用することを目指す県立医大MBT研究所の梅田智広教授が「実験を通して生活と運動不足を見直してほしい」と呼びかけた。

奈良市の浦川剛夫さん（79）は「スポーツジムに通

っているが心臓に不安もあり、もし異常が出たら早め
に通知してほしい」と期待
していた。